

あそびあそばせ、永遠なれ↑やっぱいいです

あだち

皆さんは、「遊ぶ」をしていますか？　こんな風に言うくらいですから、僕はもちろんやっています。それはもう、ハチャメチャ大真面目に。

でもね、「遊ぶ」って一体何なんでしょう。どこからどこまでが遊びで、どこからは遊びじゃなくなるのでしょうか。

僕（たち）はよくボードゲームで遊びますが、もちろんそれだけが遊びではありません。顔を突き合わせないゲーム（オンラインゲーム）なども遊びです。

また、自分以外の人と一緒にするものだけが遊びというわけでもありません。一人で遊ぶ場合もあります。みなさんが普段一人で楽しんでいることを思い返してみてください。マンガとか本を読むのも遊びの一種だと思えますし、バカデカイ剣を自室で、素っ頓狂な声をあげて振り回しているのもまた遊びだと思えます。思うよな？　どんな行為も遊びになる可能性を秘めています。例えば自分の部屋で、水を飲むようにするときだってそうです。今回はコップの三十センチ上からたかくく水を注いでみようとか、半分水が残ったコップにオシッコしたら溢れちゃったりするのか（強化系の水見式みただね）、と思ってみたりするとか。で、結局水は飲みそびれちゃう。

けど、全然それでいいと思います。いつも同じことを同じように行うのは飽きてしまいますから、ちよつとだけ変えてみる。行動に幅を持たせる。目的に向かうことが目的ではない。遊びというのはそういうものなのかもしれない。

あと、「遊び」が「遊び」じゃなくなる時ってありませんか？　例えば、対戦型ゲームのランクマッチとかがそうだと僕は思います。ただ楽しもうと思つて始めたコトなのに、いつしかランキングへの執着がモチベーションになっていつてしまう。こうなつたらもう、遊びではありません。そういう動機ももちろんものではあつて、僕はそれを尊重したいのですが、「遊び」という言葉の持つ雰囲気からは離れてしまつていふような気がします。

ここからは、「遊び」を構成する要素の話をしたと思います。今から記すことに関しては「僕はこう思つていふ」というだけで特に根拠はありません。

まず、遊びには（精神的な）余裕が必要だと思つています。切羽詰まった状態でやることは遊びになりえないのではないのでしょうか。例えば、僕にとつて、大学受験は全然遊びではなかつたです。もし試験の時、終了三十分前くらいの方に試験官にいきなり横からくすぐられたりでもしたら、まっすぐに「○すぞ！」という気分になると思

います。こういう状態が余裕のない状態です。

もし余裕のある状態の時にくすぐられたら、まだ余裕のない時に比べて何かできると思います。こちよこちよされて、ツボというツボを突かれて、ひとしきり笑った後に「笑わせてくれてありがとう、お礼と言っては何だけど」と言っただけでも振舞ってあげられるのではないのでしょうか。これが余裕ある大人の態度というものです。今度僕にこちよこちよをしてくれた方には、料理を振舞おうと思います。

次に、遊びには「プリキュアの空間」が必要だと思います。これはどういう空間のことかというところ、「最終的に全部元通りになる空間」のことです。プリキュアの戦闘シーン（というか戦闘事後シーン）があるのですが、敵によってボコボコになった街の建物や道路などは、その敵を倒した後に謎のキラキラによって修復され、本来の状態に戻ります。

「遊び」は遊びの中で完結している必要があると思います。時には役割上、ヘイトを集めるキャラクターになりきったりする必要が遊びの中で生じるでしょう。しかし、それをゲーム後に宵越しちゃうのはよくないと思います。実際の人間関係と「遊び」は切り離される必要があります。

反対に、「自分がなりたいと思っているものになれちゃう（実際の人間関係に関係なく、ゲーム上で与えられた

役割を演じることが出来る）」という側面も遊びにはあります。ヒールを演じること自体は全然悪いことではないので、それが原因で現実でハブられたりしてしまうのは悲しいことです。

最後に、遊びには「恥じらいの逆」が必要だと思います。言い換えると「恥らわなさ」でしょうか。一人である人が二人以上であれば、「遊びに精神を没入させている」という意識が、遊びの参加者全員に必要だと思います。それは端から見たら、とても前後不覚のハズカシ者に見えてしまう場合もあります。それでも、「遊び」そのものだけに心血を注いで、それ以外を決して見ないようにする。そういう気概が遊びの雰囲気を作り出すのだと思います。

遊びという惑星の衛星軌道上をフヨフヨしている物事は、先に言ったことだけでなくまだまだたくさんあると思います。とりあえずこのくらいにしておきます。

見返したら、僕の文章にはとりとめがなさすぎると思いました。エッセイなので全然これでいいですけど。とりあえず積読になっているロジェ・カイヨワの『遊びと人間』をしっかりと読んでから。この続きに書けるようなことを考えていこうと思います。